

全国飼料増産行動会議 事例発表

氏家地区稲わら供給組合

栃木県

背景

- ① 大規模肥育農家が多い
- ② 稲わらと堆肥の交換が多い地域
- ③ 肥育農家からの要望が多かった

取組までの経緯

- ① 耕畜連携で稲わら確保を検討
- ② 国産粗飼料増産緊急対策の創設
- ③ 関係機関との連携
- ④ 事業のPR・情報提供
- ⑤ 説明会の実施
- ⑥ 畜産農家同士での話し合い
- ⑦ 農協のバックアップ

組合設立

組合員 6名

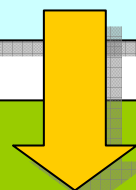
畜産農家
3名

組合長

副組合長

会 計

稲作農家
3名



臨時のオペレーター
(稲作農家) 9名

耕種農家

組 合

畜産農家

稲刈り

反 転

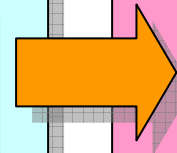
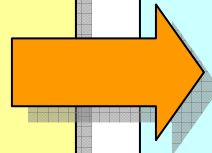
運 搬

収 草

堆肥散布

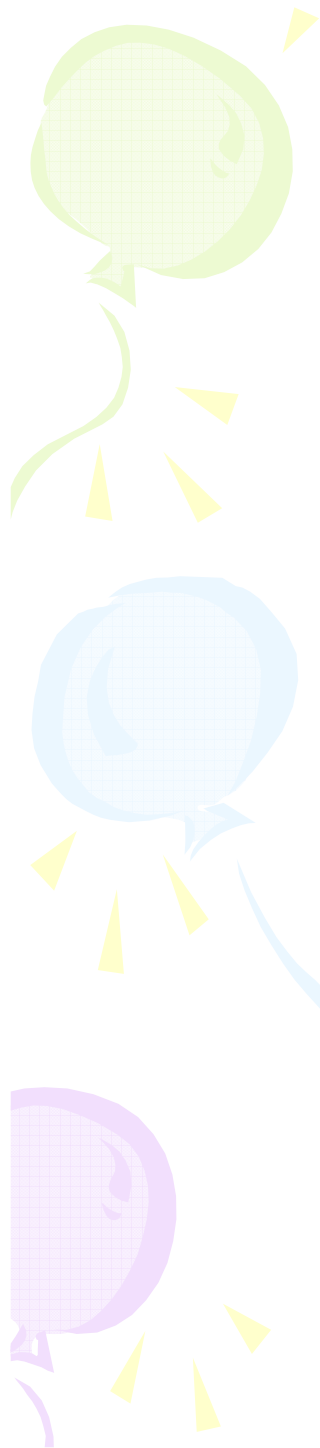
梱 包

保 管

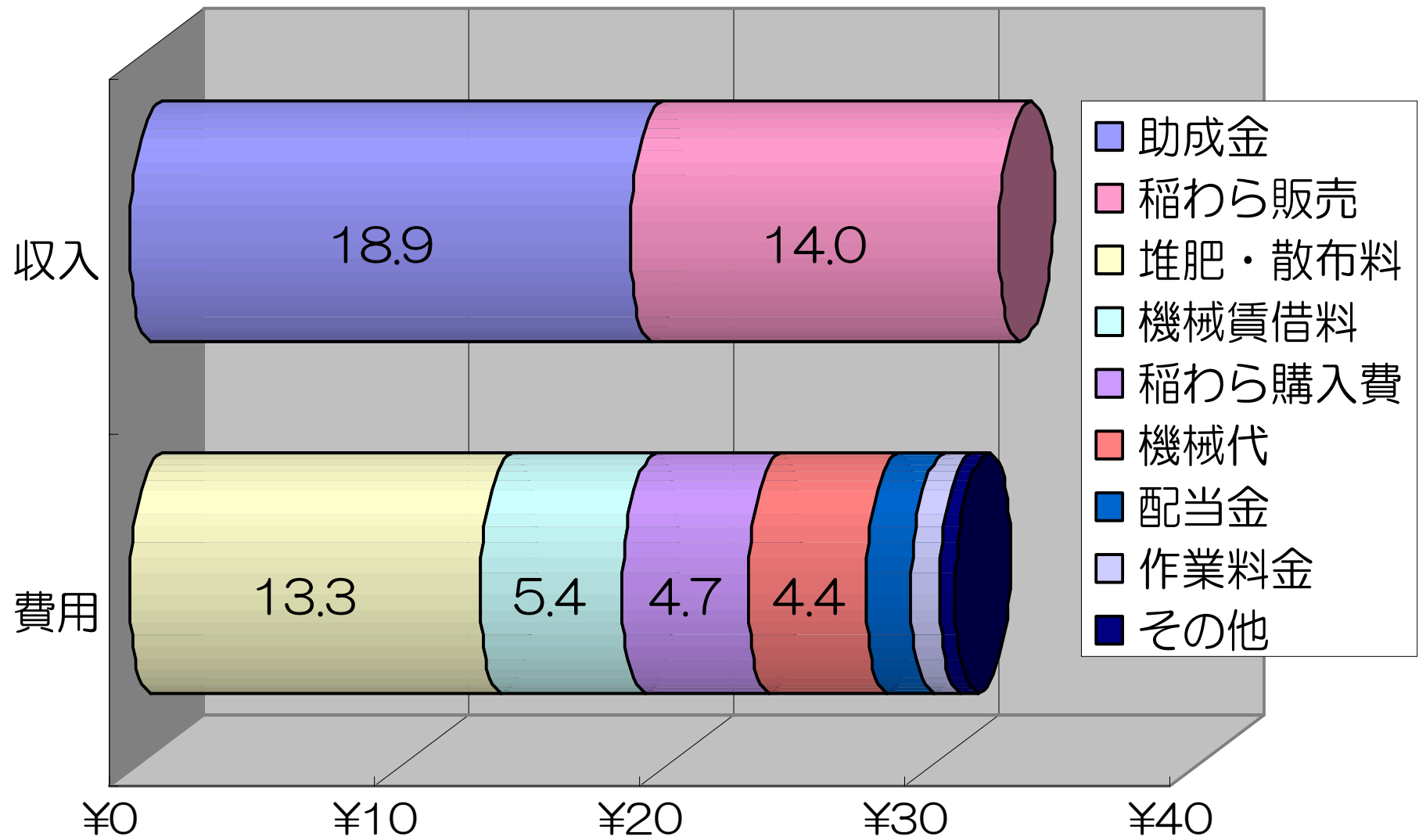






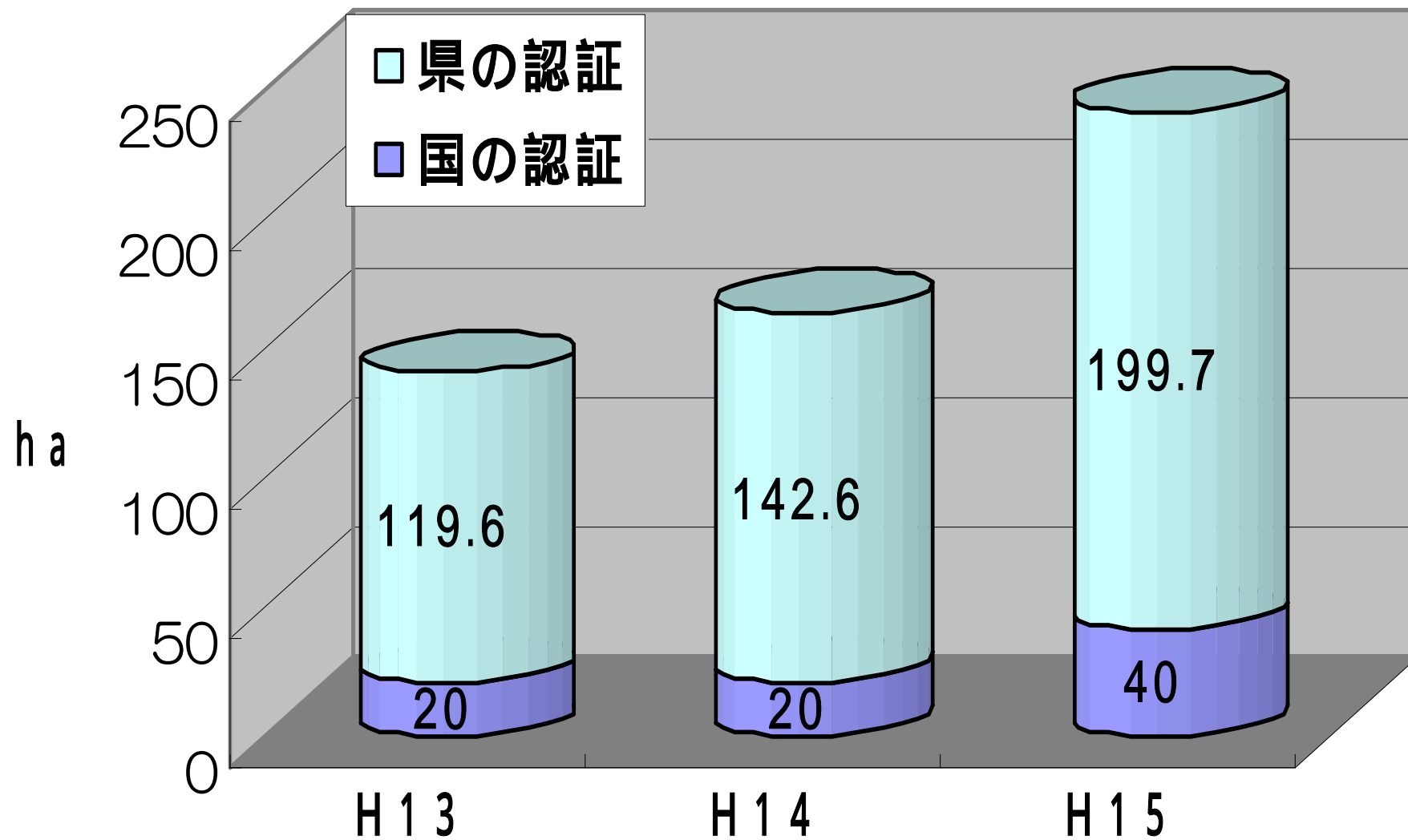


稲わら 1 kg当たりの収入と費用





特別栽培農産物の取組状況



工夫した点

地域で活躍している稲作農家をメンバーに

稲作生産集団を臨時のオペレーターに

助成金の一部を稲作農家に還元

運搬・堆肥散布は畜産農家

問題点

圃場の確認と事務処理が複雑

収集作業が天候に左右され労働が過酷に

今後の機械の更新

助成金に頼った資金繰り

今後の方針

経費を圧縮して安価な稲わらを供給

稲作農家と畜産農家と組合の連携を深める

稲作農家への堆肥利用の推進・PR

飼料イネ栽培の取り組み

